



見えない・見えにくい児童生徒おすすめアプリ

7月に発行した、弱視学級サポートだよりでは、chromebook、windows、iPad それぞれの便利な設定方法をご案内しました。今回は、特に android、iOS などのスマートフォンやタブレット端末で使用できる便利なアプリを紹介します。スマートフォン端末はアプリケーションをインストールすることで、より活用の幅が広がりますので、ぜひ使ってみてください。以下に紹介するのは、すべて無料のアプリとなります。

	Seeing AI	周囲の状況について説明するアプリです。AI の機能を活用して近くの人、テキスト、オブジェクトについて説明します。短いテキスト・ドキュメント・製品（バーコードリーダー）・人・通貨・シーン・色・ライトの機能があります。
	明るく大きく	小さな文字を、色彩処理により「明るく」「大きく」「くっきり」とさせて、快適に読むための補助をするアプリです。黒地に白文字などで表示する「明度反転」モードや、表示色を限定する「モノクローム」モード、斜め上から本などを読むときに歪みを補正して読みやすくする「斜め上から補正」機能があります。 ぼやけながらも遠くを見るための単眼鏡的な使い方をするために、最大倍率は20倍です。
	UDCast	映画や放送番組、Web 動画、展示施設やイベント会場などのコンテンツを スマホやタブレット PC（セカンドスクリーン）の専用アプリを使ってバリアフリー化させるサービスです。映像コンテンツに対して「日本語字幕」や「手話映像」「日本語音声ガイド」「多言語字幕や音声」を提供します。 「作品情報」で観たい映画を確認、事前にダウンロードしておきます。
	Eye Navi	Eye Navi は、スマートフォンひとつで、道案内と障害物検出、歩行レコーダー機能を備えた視覚障がい者歩行支援アプリです。目的地までの方向や経路、周辺施設、進路上の障害物、歩行者信号の色、点字ブロック等を音声で知らせます。 点字ブロックがある街中で活躍するアプリです。ただし、点字ブロックのない田舎道での道案内は現段階では難しいですが、目的地までの方向や距離は正しく示されます。

スマートフォンやタブレット等を使用する前に必要なことは？

(1) わからない言葉に関心をもつ

「知りたい！」「調べてみたい！」と興味関心をもつことができる体験や、一緒に調べてみて「なるほど！」「わかった！」と喜びを感じる経験をしましょう。

(2) パソコン入力に備え、様々な文字に関心をもつ

◆ローマ字を覚える

電話と同じようにフリック入力でも使用できますが、将来的にはアルファベット入力を目指します。低学年のうちにはアルファベットに興味を持つことから、初めて見るとよいのではないのでしょうか。

◆漢字の意味を理解する

音声読み上げの機能を使用すると、「運動会」→「運転の運、運ぶ、動物の動、動く、会社の会、会う」と言うように読み上げられ、漢字の変換を確かめることができます。

(3) タブレット(スマートフォン)に親しむ。

◆音声機能を使って検索をやってみよう！

天気予報などを検索している姿を示したり、一緒に好きな音楽を検索してみたり、生活の中で使用してみましよう。

(4) 使う際のルールを決める。

インターネットは便利なものですが、それを悪用する人もいます。使う上でルールを作り一人一人が意識して自分の身を守るようにしていきましょう。

「自分の名前や写真などの個人情報を送信しない」「パスワードは友達にも秘密」「他の人が傷ついたり、不快に思ったりする内容をネット上に上げない」「メールのリンクやファイルはすぐに開かない」「課金はしない」「困ったら大人に相談」など

ICT を活用した授業で注意したいこと

(1) 適度に休憩をいれる。

スマートフォンやタブレットの使用は、大変目に負担がかかります。適度に休憩を入れながら使うように意識することが大切です。優れたタブレット教材などは、児童生徒が夢中になって取り組むため、長時間連続して使用してしまう場合があります。時間を決めて休憩するなど工夫をしましょう。

(2) スクリーンの位置を確認する。

最近では電子黒板を使った授業が増えてきています。そのとき、スクリーンの位置はどうなっているのでしょうか。スクリーンは目線より下にあると疲れにくいと言われています。特に教室で大型スクリーンを使用する際には、児童生徒の目線を意識して高さを設定してみましよう。

(3) 「出力」を大切に授業を組み立てる。

電子黒板やタブレットを利用した学びは、どうしても「入力」が多くなってしまいます。学びを深めるためにも、少し「出力」を意識して授業を組み立ててみましょう。